

機関リポジトリ 新任担当者研修

先行大学におけるコンテンツ収集事例 2

筑波大学 附属図書館 情報管理課
リポジトリ担当 真中

はじめに

- あくまで筑波大学の事例です
- やり方はひとつではありません
- 何がよいかは試行錯誤です
- 時間がかかっても道筋をつけるつもりでやっています

なぜ登録（依頼）するのか？

- 大学等の機関の教育研究について説明責任を果たすため？
 - 機関が何をしているか見えにくい
- 保管のため？
 - 作られた成果をほかの場所で永く保存できるか
- 成果が集約されていることの利便性？
 - 単なるリンクリストでないことの意味

いろいろな成果物の把握

- コンテンツ種類
 - 学術雑誌論文
 - 講義資料
 - その他
- 研究成果情報源
 - 研究者情報データベース
 - Web of Scienceなどの学術論文データベース
 - 研究者個人の成果物リスト（個人Webページ、印刷リスト）
 - その他

筑波大学の学術雑誌論文の事例についておはなしします

著作権ポリシー Green, Blue, Yellow . . . ってなに？

- 著作物には必ず著作権が存在します
- 機関リポジトリに登録して公開するには、その許諾を得る必要があります
- 著作権は必ずしも著作者にすべてあるとは限りません
- 著作権が譲渡されていないのか、されているなら誰に許諾を求めればよいのか調査します
- 調査するデータベースがSHERPA/RoMEO やSCPJです
- 著作権のポリシーをこれらのデータベースでは大まかにGreen やBlueといった色で表現しています

著者版、出版者版・・・どれを登録する？

- 出版者版(publisher version)登録できるもの（例）
 - APS (American Physical Society)
 - AIP (American Institute of Physics)
- 英文誌の多くは著者最終版(final draft, final version)の登録可
- 最近ではOpen Accessオプションでpublisher version可のものもあるが実際には少ない・・・
- Open Access Journal (PLOS ONE, BMJ Openなど) 掲載論文は割とたくさんある

英語、日本語、分野・・・何を選ぶ？ (登録依頼方針)

- 研究分野に優劣なし
 - 日本語、英語、自然科学系、人文科学系・・・
- ただし成果物の把握難度の違いあり
 - どの程度網羅的に把握できるか
- 著作権ポリシーの傾向にも留意
 - 英語はfinal draft、日本語はむしろ出版者版の許諾が多い傾向
 - 登録依頼時の入手しやすさとも関係あり

調査・登録の流れ

1. 対象論文の把握
2. リポジトリ登録可能か調査（著作権ポリシー、embargo）
3. 著者への登録許諾依頼
 - 単著
 - 共著
4. （場合によって出版者へ連絡。事前許諾や確認）
5. 登録可能な全文データの入手
6. リポジトリ登録

Web of Scienceの例

1. Web of Scienceの著者所属“Univ Tsukuba”で検索する
2. レコードコンテンツ（詳細—所属あり）、ファイルフォーマットタブ区切り、で保存する
3. C1(Author Address)にある所属情報と手元の研究者情報と比較。他大学、あるいは院生のみものなどを選び分ける
4. 抽出した論文が機関リポジトリ登録可能か調査する
5. 登録可能論文について電子メールで許諾依頼する

以上を1週間単位で行っている。

研究者情報データベースの例

1. 研究者情報データベースから論文情報をタブ区切りテキストでダウンロードする
2. 雑誌名単位で比較する
 - 日本語論文はSCPJからダウンロードしたデータと
3. 登録可能論文については前頁と同様に処理する
4. または出版者版登録可能なものについて選り分けて依頼する

およその登録数（参考）

- 2014/4/1～2015/2/13までWeb of Science調査
 - ダウンロードした総論文数 1,768
 - そのうち学内教員の論文数 1,498
 - そのうちリポジトリ登録許諾依頼可能なもの（出版者版含む） 約半数
 - 登録できたもの（約200）
 - エンバーゴのあと依頼予定のもの（約250）

メール依頼内容

- リポジトリへの登録許諾依頼
- 共著者の許諾依頼
- 著者版が必要なら本文の提供依頼
- 出版者版であっても必要なら本文の提供依頼
- OA論文でも登録許諾依頼（事後報告もあり？）

登録を推進するためにカイゼンできること

1. 学内全体のコンセンサス作り
 2. 成果物の把握の効率化
 3. リポジトリへの一括登録手段の確保
- 長く、歩みを止めずに進めて行くためには外的な環境づくりだけでなく、研究者、リポジトリ担当者双方のマインドの熟成が大事

(参考)

1. Society Copyright Policies in Japan <http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>
2. SHERPA/RoMEO - Publisher copyright policies & self-archiving
<http://www.sherpa.ac.uk/romeo/>
3. Directory of Open Access Journals <http://doaj.org/>
4. Digital Repository Federation - DRF wiki
<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/>